

「子どもの事故防止週間」

【子どもの事故に関する救急統計について】

総務省消防庁や消費者庁をはじめ関係10府省庁が、7月19日（月）から7月25日（日）までを「子どもの事故防止週間」とし、外出先や家庭内での子どもの事故防止を呼びかけています。

過去10年間（2011年から2020年まで）、郡山地方広域消防組合管内では0歳から12歳までの子ども1,986人が「一般負傷事故」によって救急搬送されています。

関係府省庁の取組みと合わせて注意喚起を図るため、以下のとおり救急統計を取りまとめたのでお知らせします。

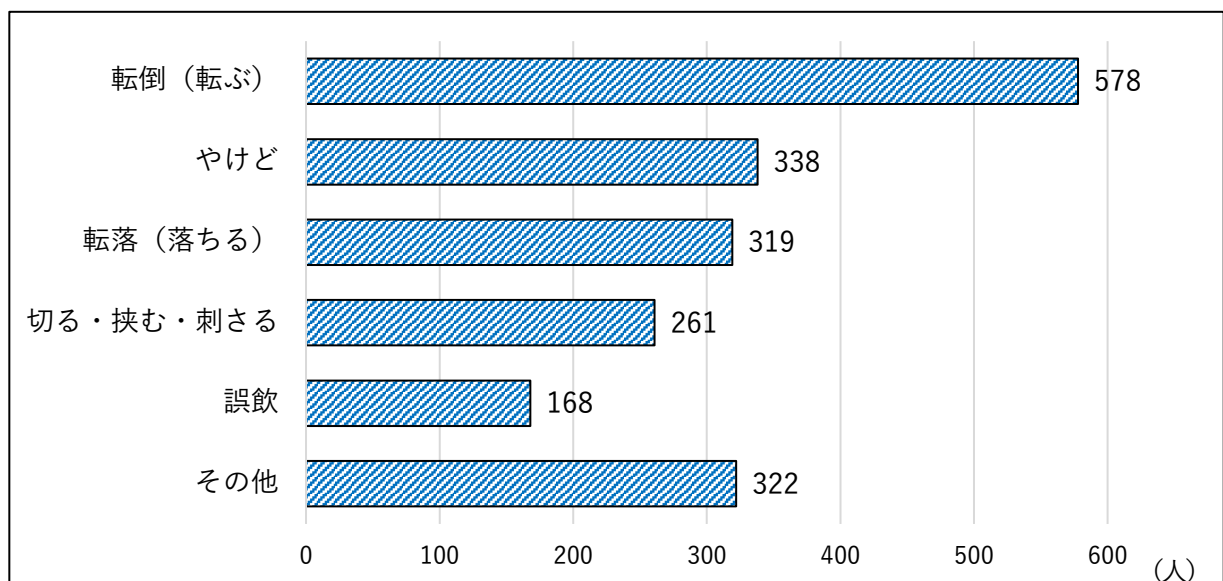
※ 「子どもの事故防止週間」は、子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議（内閣府、警察庁、消費者庁、総務省消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、海上保安庁）が主体となり実施されています。

※ 小数点を含むものは小数第二位を四捨五入した数値です。

※ 一般負傷事故とは、交通事故などに分類されない一般的な負傷で、転倒、転落、やけど、誤飲などを言います。

1 内容別の救急搬送人員

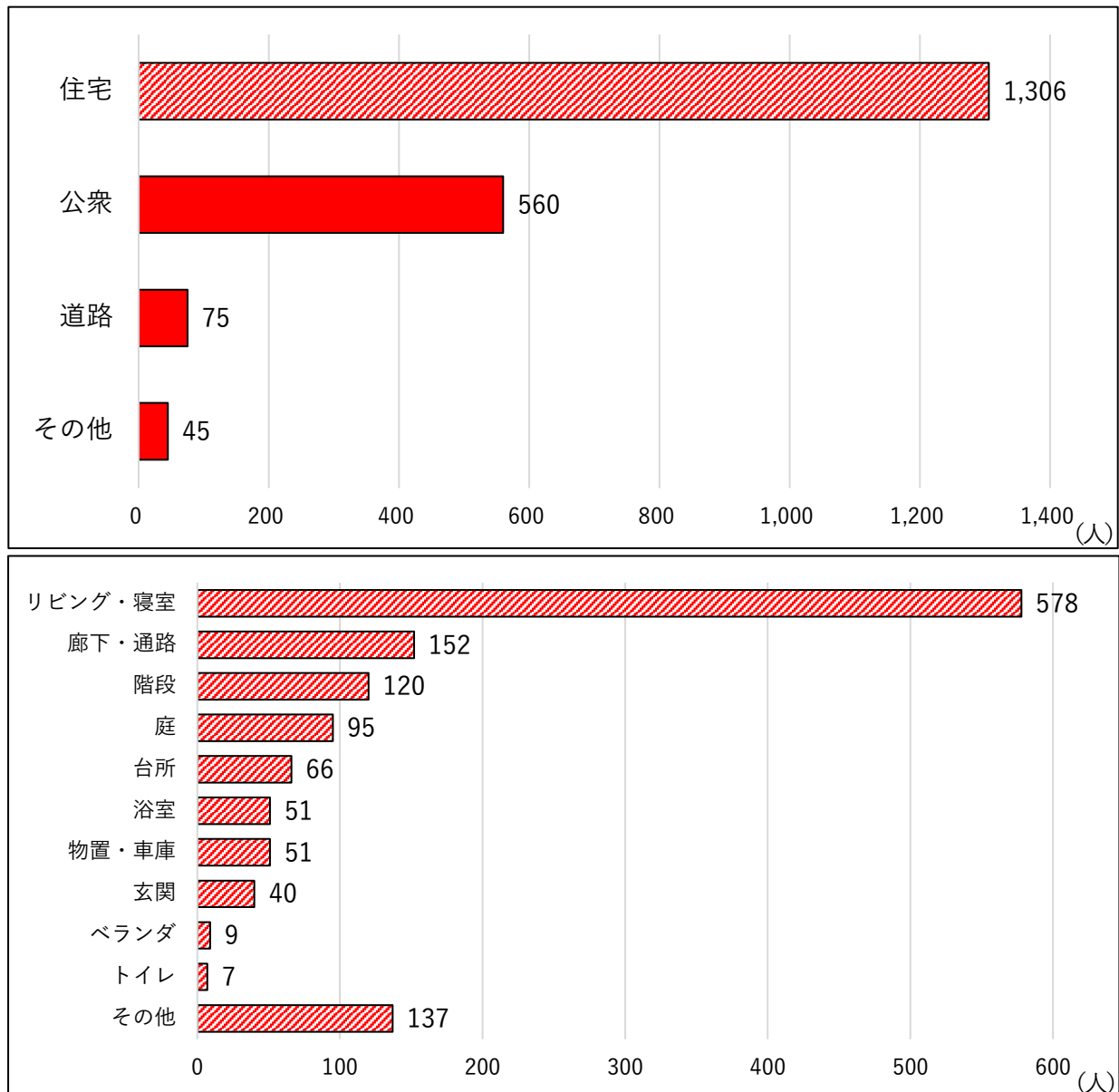
内容別の救急搬送人員をみると、「転倒（転ぶ）」が578人（29.1%）で最も多く、次いで「やけど」が338人（17.0%）、「転落（落ちる）」が319人（16.1%）と続きます。



2 発生場所別の救急搬送人員

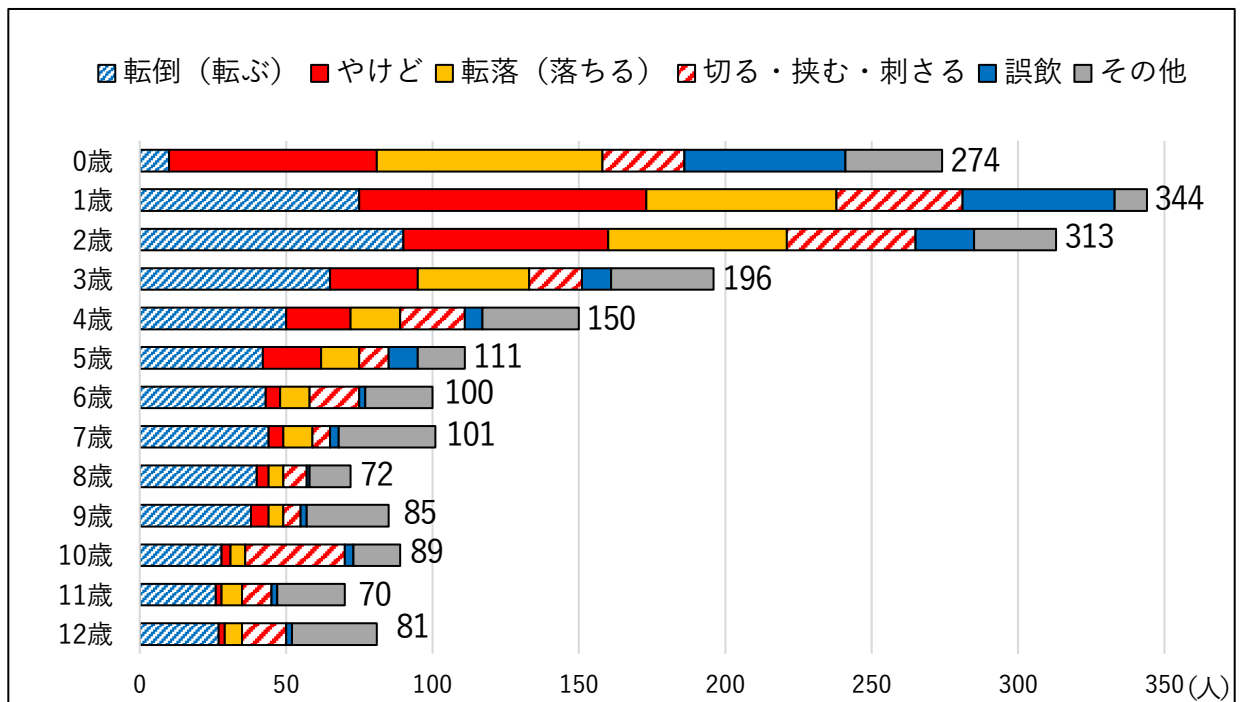
発生場所別の救急搬送人員をみると、「住宅」が最も多く1,306人(65.8%)、次いで「公衆」が560人(28.2%)、「道路」が75人(3.8%)と続きます。

さらに「住宅」での詳細な場所別にみると、「リビング・寝室」が最も多く578人(44.3%)、「廊下・通路」が152人(11.6%)、「階段」が120人(9.2%)と続きます。



3 年齢別の救急搬送人員

年齢別の救急搬送人員をみると、「1歳」が最も多く344人(17.3%)、次いで「2歳」が313人(15.8%)、「0歳」が274人(13.8%)と続き、これらの年齢で全体の46.9%を占めています。



4 男女別の救急搬送人員

男女別の救急搬送人員をみると、0歳から12歳のすべての年齢で、男児が女児を大きく上回っていることが分かります。全年齢における男女別の差はないことから、この傾向は子どもにおける特徴であることが推測されます。

